

第343号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



支えられ生きる

お盆の季節がやって来しました。今年は梅雨明けが早く、酷暑の日が続いています。連日の気温が℃35度を超える真夏日となり、熱中症で倒れる人も増えています。皆様、如何お過ごしでしょうか。

それにして7月に入ってから雨が降り続け、西日本の各地で集中豪雨により土砂崩れや河川の氾濫によって被災を受け、土砂災害による死者は14府県で223人に達しています。このたびの西日本豪雨によって被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

4年前の豪雨による土砂災害で77人が死亡した広島県だが、今回も112人が亡くなり深刻な被害を受けました。岡山県でもため池36カ所が損壊したり、あちこちで重大な被害を受けています。特に倉敷市真備町では7月7日の午前の未明に、小田川の堤防が決壊し、床上・床下浸水で約1万1270棟が災害に遭い、愚僧の御門徒も二階まで浸水するという重大な被害を受けました。水の引いた7月10日から家の片づけが始まり、連日の猛暑の中を全国各地から駆けつけて下さったボランティアの方とともに大変な作業となっております。

愚僧も7月13日に、水害でお仏壇が壊れた家に廃仏のお経をあげるために、現地に入りました。道路の両脇は浸水被害にあった洗濯機や



カット：本多紘子

冷蔵庫、ソファや机などが捨てられ、狭い道路は車が渋滞し、土埃が舞う中をやっとたどり着くと、二日半も水につかっていた家は土壁が崩れ、家財道具が散らかり、異臭もあり、まるで地獄でした。

『備えあれば患い無し』という諺がありますが、百年に一度の豪雨は想定していないので、全国各地で甚大な被害を受けました。官公庁より避難勧告が出ても自分のところは大丈夫と思つて、避難が遅れて生命を落とされた方がたくさんおられ残念です。仏教ではこの世は何が起こるかも知れない、いつ死ぬかも知れないとあります。どんなに災害対策しても死ぬときは死ぬ、死にたくても死ねないときがあるのが、この世の悲しいところです。

地球温暖化の影響で気温が上昇し、北極や南極の氷山が崩れて海に漂流したり、豪雨の水害や大型台風による風水害、また日照りの早魃で農地が砂漠化するなど、地球環境に異変が起きていても、余り深刻に考えないのが私たちですね。100年先、200年先の日本はどうなっているのか、真剣に考える訓練をしたいものです。人間は死んだらお終いではなく、次の世代を生きる子や孫達、また未来を生きる人々のために、よりよい環境を残す人としての使命があるように愚僧には思われてなりません。

「人間死んだらお終いだ」という人がいますが、「あなたは死んだらお終いのような人生しか歩んでいないんですか」と問われたら、何とお答えします？あなたの考え方や生き様は、少なくともあなたの家族や子や孫達に多大な影響を与えています。あなたの考え方や生き様は何らかの形で、残り伝わるのです。

「人間死んだらゴミになる」と言われた方もいますが、「あなたの生き方はゴミになるための人生だったのですか」と問われたら、何とお答えします？人生には辛いことや苦しいこと、また悲しいことがたくさんありますが、そのなかで支えられ励まされて生きてきたことを思い出し、皆に感謝しながら生きる道を学ぼうよ。合掌 (奥原 曇龍)

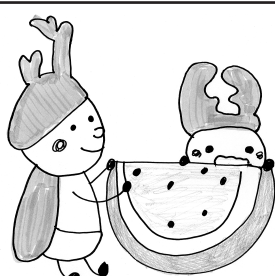
*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

『人生に苦しみ悲しみ付きものだ 苦難の道こそ人が人になる』 どんりゆう

ともしび説法

日時・八月二十四日「金曜日」 午前十時から午後十二時まで。
九月 五日「水曜日」 午前十時から午後十二時頃まで。
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



カット：奥原 綾



お釈迦様ものがたり 22

29歳の時、お釈迦様は家族と故郷を捨てて600キロも離れた南方のマガダ国の王舎城に赴き、覚りの道求め師を探します。

人間とは何か。人として生きる意味、人として死に行く意味とは何か。自分とは何者なのか。インド人を支配していた輪廻の思想は正しいのか。生類である魚や鳥や蛇や虫や人は、天国から地獄までの種々な世界を生まれ変わり死に変わりする。この輪廻は永遠に続き、そのままでは、この輪を断ち切ることが出来ず、絶対の幸福と安心が得られないとされる輪廻思想の離脱を求めて、出家されたといえます。生きる真実を求めたのです。

当時インド一般に行われていた修行の方法は、大別すれば、禪定と苦行の二つでした。森林の静かな場所で瞑想にふけるのが禪定であり、炎天下に粗末な衣装で食事も木の実だけという厳しい修行を苦行と呼びました。

お釈迦様の生まれる200年前の西暦前700年代をインドでウパニシャッド時代と呼んでいますが、社会に対する不安や、現実への悲観的なものの方や考え方が増大し、アリアン人の支配社会が混乱期に入った時代でもありました。宇宙の精神である梵(ブラフマン)と自我が融合して、梵我一如の理想郷に到達したときに、輪廻からの離脱が得られると、座禅瞑想したのです。

時代が少し下がると、梵我一如の一元論から、精神原理としての神我(プルシャ)のほかに、物質原理としての自性(ブラクリテ)が立てられ、精神の自由を妨げるのが肉体という物質だとして、物心二元の対立よって現象が生じ、悪徳不幸が起こるといって二元論が生まれてきます。

お釈迦様も精神と肉体の対立に悩み、肉体を苦しめ抜く厳しい修行もされました。初期には二人の師匠について修行しますが、後には師匠を離れ苦行します。合掌(奥原曇龍)

盆参り住職さんも飛び回る 亡き人偲ぶともしび明かり 田辺多恵子



総代さん達と仏具みがき(6月17日)

ともしび法話

八月はお盆の季節です。今年の七月の初めに西日本で豪雨が降り、各地で土砂崩れや川の氾濫で大災害となりました。被災者の皆様に心よりお見舞い申しあげます。倉敷市真備町でも小田川の堤防が決壊して、多くの民家が水没しました。酷暑の中で、多くの復旧作業、あせらず、あきらめずに心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

このたび7月7日に、小田川堤防の決壊で河水が濁流となって、自宅が二階まで水没しました。連日の猛暑の中を片づけに追われていますが、7月13日には曇龍住職に仏壇の廃仏のお経に来て頂きました。失ったものは大きかったが何とか頑張ります。 倉敷市真備町 平岡 正則

曇龍先生、小田川が決壊するなど夢にも思いませんでした。家が水没し、何もかも失い、精神的に落ち込んでいます。7月13日には仏壇の廃仏のお経を有り難うございました。前向きに頑張ります。 倉敷市真備町 左右田康弘

みんなで助け合って頑張ろう！倉敷の町！

ともしび説法

日時・八月二十四日「金曜日」 午前十時から午後十二時まで。
九月 五日「水曜日」 午前十時から午後十二時頃まで。
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定

十月 四日(木)・午後一時から午後四時・早高の本堂。
十一月 三日(土)・午前十時から午後四時・早高の本堂。
ハンドベル演奏・民舞・フラダンス・午後から報恩講法要。

☆『ともしび』を平成21〜23年、平成24〜26年、平成27〜29年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となって、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返ることが出来ます。まとめた本が欲しい方は実費でお分け致します。

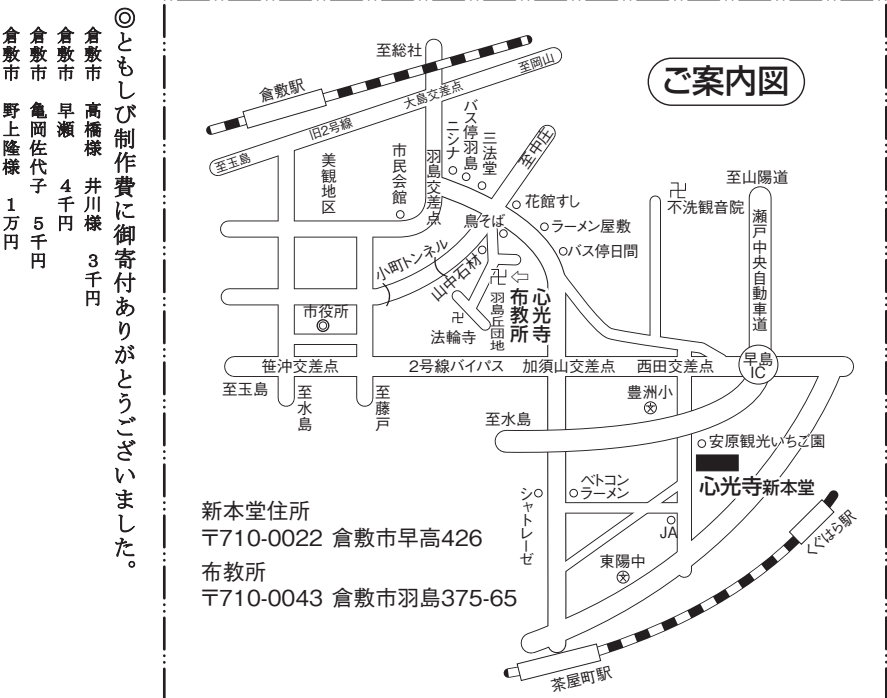


いっしょの詩

今年もお盆がやってきた
楽あれば苦ありと語っていた父も
理想になんども裏切られ
流転はしたけれど
れつきとした生き様を見せて
老木枯れるように逝って十八年
年々に父の生き方が偲ばれる



カット:吉岡美枝



◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。
倉敷市 高橋様 井川様 3千円
倉敷市 早瀬 4千円
倉敷市 亀岡佐代子 5千円
倉敷市 野上隆様 1万円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「343号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法が午後の日には茶屋町駅西口に12時30分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡を下さい。 合掌 心光寺 総代長 三村 健